



とらいあんぐる



2020 年 4 月 ・ 5 月

一音会ミュージックスクール発行

「やさしい人」

多難の時を過ごしています。世界中、すべての人が、苦しんでいます。

一音会もその渦中にあり、私も普段考えないようなことを、たくさん考えさせられることになりました。

この数か月で、たくさんの命が失われました。

その圧倒的に悲しい出来事のおかげに、残念なことも、山のようにありました。

3 月以降、たいへんな数のコンサートが中止になりました。

一音会も、3 月に客員教授のプリドフ先生ご夫妻をお招きし、レッスンやコンサートやオーディションをおこなう予定でした。そのすべてが、流れてしまいました。

コンサートがなくなり、音楽家は仕事を失いました。

本当に残念なことでした。

残念に思うのは、単にコンサートが中止になってしまったことではなく、音楽が不要不急なものとして切り捨てられたことです。真に残念なのは、そのことです。

ですが、生きてさえいれば、また音楽のもとに集うことができます。

プリドノフ先生は、アメリカの地で、きっとお元気にしていらっしゃるはずです。今は耐えて、その時を待ちたいと思います。

プリドノフ先生とはじめてお会いした時のことを書きたいと思います。約20年前のことでした。

ピアニストとして円熟期にあるユージン・プリドノフ先生と、はじめてお会いしたのは、一音会本部の応接室でした。

当時、一音会のスタッフであったO先生の留学時代の恩師がユージン先生であり、O先生がひきあわせてくれた縁でした。

ユージン先生と、私の母、通訳として同席したO先生と、私。この4人でした。

世界的に活躍するピアニストと聞いて思い描いていたイメージは、まったくあたっていませんでした。

やさしくほがらかなユージン先生と、私たちはすぐに意気投合しました。

人見知りの母までもが、すっかり気をゆるしているのが分かりました。それは、とてもめずらしいことでした。

英語がまったく話せない。一度も日本を出たことがない母。

日本語がまったく分からない。1年のほとんどの時期、世界中をとびまわっているプリドノフ先生。

共通点がない二人を結びつけたのは、音楽に対する情熱だったのかもしれない。

その日はじめて会ったとは思えないほどにうちとけていました。

母は、この人になら打ち明けても良いと思ったのでしょうか。私もきいたことがない話を、突然はじめたのです。

「私は、全身を病気におかされ、一歩も歩けません。ピアノも弾けません。こんな状態の私がなぜ、命を削って、ピアノ教室を開いて、子どもたちにピアノを教えようとしているか、分かりますか？」

母の顔は真剣そのものでした。ユー
ジン先生も真剣な表情になります。

母は、いいます。

「私には目指していることがあるので
す！」

プリドノフ先生が思わず身を乗り出
したことが分かりました。

少し間があきます。

決してもったいぶっているわけでは
なく、なぜか母はとてもいいにくそう
でした。

「こんなことを言うと、おかしな人だと思
われそうですが…」

ユージン先生は、さらに身を乗り出
しています。

「私は世界平和を目指しているので
す！」

母は、いってしまってから、とんで
もないことをいってしまったというよ
うに、照れ笑いをしました。

けれど、ユージン先生は笑いません
でした。その表情は、真剣そのもので
す。

母は、しずかに語りはじめます。

「私はユージン先生よりも、年齢が上
です。太平洋戦争を記憶する最後の世代だ
と思います。

あの時代、人の命が考えられないほど
軽かったのです。

近所に、いつも子どもたちの遊び相手
になってくれる若い男の人がいました。

そのお兄さんを、しばらく見かけないな
と思っていたら、ある日、小さな小さな木
の箱に入って帰ってきました。戦争に行っ
ていたと、その時、知りました。



ある晴れた日。青い空に飛ぶ飛行機が、紙飛行機のようにヒラヒラと落ちました。

それを見ていた多くのおとなたちが、ものすごい形相で飛行機が落ちた方向に走り出しました。おとなたちは必死に、煙を上げる飛行機に、バケツで水をかけていました。

ムダです。飛行機に乗っていた人は、人間の形をしていませんでした。身体は真っ黒に焼けていました。爆撃されたのです。

空襲を境に、二度と会えなくなった人がたくさんいます。子どもも、おとなも。

お友だち、そのお父さん、お母さん、近所のおじさん、みんな元気だったのに、みんなすごく良い人だったのに、いなくなてしまいました。

とにかく、人があつというまにいなくなてしまうのです。元気だった人が、です。

誰がいなくなっても不思議ではありませんでした。

しかも、そんな日が続くのです。来る日も来る日も。

おそろしいことに、おとなたちは、それを当然のように受け入れていました」

母は、思い出したくないことを思い出している顔でした。苦いものを飲みこむような顔で、話を続けます。

「いいえ、ちがうのです。受け入れられるわけがありません。受け入れているように見えて、あきらめていたのです。どうしようもないのだ、と。

それ自体、異常です。

誰がいなくなっても不思議ではないなんていう日常は、人をおかしくしてしまうのですよ。

世の中全体が、くるっていたのです。

それ以上に、一人一人が、みんな、おかしくなっていたのです。

心が、もたないのです。耐えられないのです。

私は子どもでしたが、おとながみんな、おかしくなっていることが、はっきり分かりました。

私の母は、夕刻になると、まるで自分の心の傷口に薬をぬるように、歌をうたっ

ていました。

誰にきかせるわけでもありません。たった一人で、歌を口ずさんでいたのです。

肩が震えていることもありました。思えば私の母が一人で歌を歌っていたのは、つらいときばかりでした。

私は、その時はじめて、音楽が人の心を救うことを知ったのです」

母は、大粒の涙を流していました。

「先生、美しい音楽をきくと、人はやさしい気持ちになるでしょう？」

そんな気持ちで、誰かを傷つけようとは思わない。戦争を起こそうとは思わない。

私はそう考えるのです。

そして、音楽は希望をくれます。どん底からはいあがる力もくれます。

私は難病におかされ、すさまじい痛みにも、今この瞬間、死んだら楽になれる！と、真剣に思う瞬間が何度も何度もありました。

でも死んだら、二度と音楽をきくことができない。

その思いが、私をこの世にとどめまし

た。私は今も、音楽に生かされているのです」

母は、突然、明るい声でいいました。

「私は、これからの世の中を作る子どもたちに、音楽という魔法を授けたいのです。

他人を傷つけない。戦争をしない。

そして苦しい時も、心を健康に保ち、自分の力で立ち上がることができる。

やさしくて、心が強い人。そんな人を育てたいのです。一人でも多く！

世界平和のために、です！」

ユージン先生は、一言も発さず、宙を見つめていました。

そしてゆっくりと話しはじめました。



「私の国は悲しいことに、軍隊を持っています。そして私には6人の息子がいます。一番下の子はハイティーンです。どの子も皆、私の宝物です。今、私がどんな気持ちか、分かりますか？」

驚いたことに、ユージン先生も涙ぐんでいました。

私は、はっとしました。当時、アメリカはまさに湾岸戦争をはじめるところだったのです。

先生は、うめくようにいいました。

「私は・・・私は・・・息子を戦争でだけは死なせたくない」



ミスターの目からとうとう、涙がこぼれました。

涙をぬぐって、顔をあげたユージン先生は、いいました。

「実は私は、ユダヤ人なのです」

母と私は、再び、はっとしました。

先の大戦の悲惨さを、誰よりも知っている人でした。

「私は、あなたの夢を応援します。

いや、そうじゃない。私にも、その夢を見させてください。音楽で世界平和を目指しましょう。音楽を愛する、心のやさしい子をたくさん育てるのです。世界を平和にするのです。人生は、つらいことも多いもの。それを乗り越える、心の強い子を育てるのです。音楽を愛する子は、心の強い子です。」

涙にぬれた先生の瞳は、キラキラと輝いていました。

そして、「私の命あるかぎり、一音会に来ます。一音会の生徒さんを全力で指導すると約束します」とおっしゃったのです。

それから、一度も約束をたがえることなく、今年が19年目でした。

はじめて、ユージン先生の来日がかなわなくなりました。

アメリカは、すでに8万人をこえる死者を出しました。その地でユージン先生が何を想い、何を考えているか、私は分かるような気がしています。

空を見上げると、同じ空のもと、ユージン先生が今もピアノを弾いていると確信します。

私は、毎日、遠いアメリカにエールを送っています。

がんばりましょうね！

今、たくさんの方が不安になっています。苦しんでいます。悲しんでいます。

今こそ、やさしい人が必要です。

音楽の力が必要です。

ねえ、そうでしょうか？

空を見上げて問いかけると、ユージン先生の力強くもあたたかいピアノの音がきこえる気がします。

そして今、こうして一音会が動きはじめたことが、ユージン先生にも伝わっている気がしています。

(江口 彩子)



◆始動しました

異例の長い休校で、たいへんご迷惑をおかけしました。申し訳ありませんでした。

長いお休みの後、教室を再開し、また生徒さんの顔を拝見できたことは、何にもましてうれしいことでした。

非常事態宣言のもと、レッスンを再開することに迷いがなかったかと言えばウソになります。

ただ、お子さまの発達には止まりません。発達の段階によって、吸収できるものも、吸収できるスピードも、まるでちがいます。そしてその瞬間は、二度と取り戻せません。お子さまが人生で一度しかない瞬間を生きていることを、私どもは重く受け止めています。

教育に関しては、いったんお店を閉じて、ずっと経ってからまた開く、ということが、たいへんなダメージになると考えています。その点は他のサービス業と区別しなくてはならないと自負しています。水をやることを止めてしまえば、植物は枯れてしまいます。枯れてしまってから再び水をやっても、意味がありません。

生徒さんやご家族の皆さまを危険にさらすことなく指導をおこなうべく、一音会はいくつかの取り組みを新たにスタートしています。くわしくは次の項の「レッスンの形態について」をごらんください。



◆レッスンの形態について

【ピアノ】

教室での密を避けるため、出勤する先生を約半分にしました。主に、遠方から通う先生に出勤を控えてもらっています。

出勤しない先生は、自宅からオンラインレッスンをおこないます。出勤しない先生が担当する生徒さんには、オンラインレッスンを受けるか、通学して対面式レッスンを受けるか、お選びいただけます。

対面式レッスンをご希望の場合は、たいへん申し訳ないのですが、出勤する先生が代講をさせていただきます。

出勤しない先生は、以下の通りです（50音順）。

秋田・一之瀬・金子・桑原・小林・近藤・斎藤・中尾・平沖・松山

上記以外の先生は、出勤しています。出勤する先生も、ご希望の方には、オンラインレッスンをおこないます。すでにオンラインレッスンの形に切り替えた生徒さんが多くいらっしゃいます。ピアノはもちろん、ソルフェージュもオンラインレッスンが可能です。

オンラインレッスンは、スマートフォンやiPhoneのような小さなモバイルでも、大丈夫です。もちろんタブレットやパソコンも便利です。ビデオ通話アプリは、FaceTime か Zoom を予定しています。アプリにつきましては、個別にご相談ください。

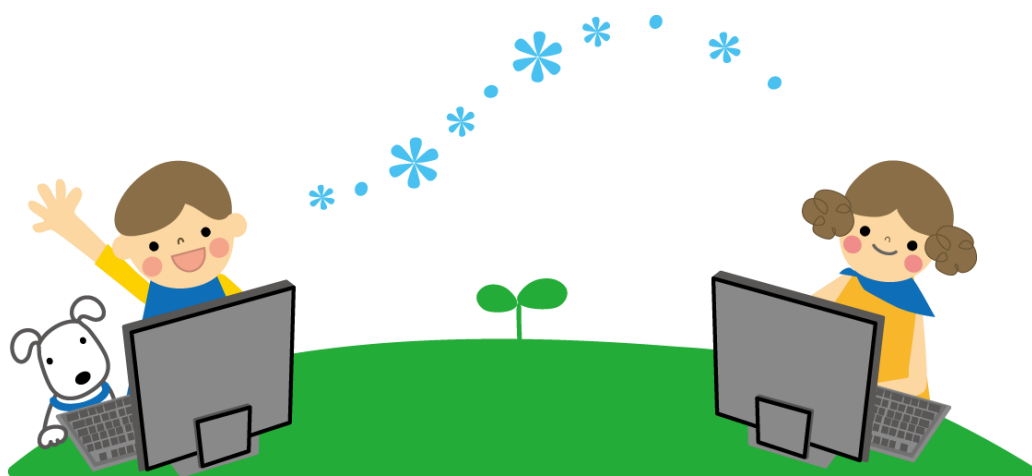
オンラインレッスンは、基本的には正規のレッスン時間に先生側からアクセスいたします。ピアノのそばでお待ちください。同じ曜日と時間、お月謝も対面式レッスンと同じです。

月の途中からオンラインレッスンに切り替えることもできます。その逆で、オンラインレッスンでスタートしたものの、やはり対面式が良いと思われた場合は、対面式レッスンに変えられます。先生との相談の上、週によって、オンラインにしたり通学したり、細かく切り替えることも可能です。ご希望をお教えいただければ、

臨機応変にご対応いたします。

また現在、お休みされている方の中で、オンラインの環境を整えることができた方は、月の途中からレッスンを再開することも可能です。お気軽にお声をおかけください。

オンラインレッスンは、いろいろと行き届かない点もあると思います。一音会はこれまでオンラインレッスンの経験がなく、不慣れでご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、全力でご指導にあたりますので、どうかよろしくおつきあいください。



【絶対音感】

通学されている生徒さんは、従来通り、対面式の絶対音感のレッスンをお受けいただくことができます。

主科がリトミックの生徒さん（ピアノを受講していない生徒さん）や、ピアノをオンラインレッスンで受講する生徒さんの絶対音感の指導は、4月と同様、「おうちハタ」になります。

「おうちハタ」とは、担当先生がメールや電話で、おうちでのおけいこの様子をうかがい、指導をさせていただくレッスンです。月に2回、ご指導させていただきます。「おうちハタ」のお月謝は、2,200円です。

対面式レッスンから「おうちハタ」へ、月の途中で切り替えることは、原則できません。その逆、「おうちハタ」から対面式レッスンへの切り替えも、お月謝の変更をとまなうため、月の変わり目での変更とさせていただきます。

【リトミック】

生徒さん同士の接触を避ける目的から、教室でのグルーブレッスンをしばらくお休みとさせていただきます。

個人レッスンとしてリトミックを受講している方、ごきょうだいだけのクラスにいる方は、通常のレッスンをおこなっています。

グルーブレッスンのリトミックを受講されている生徒さんは、「おうちリトミック」をお受けいただきます。クラスに合った内容の動画を隔週で配信いたします。おうちでごらんになりながら、おけいこしてください。

普段、リトミックをお受けになっていない生徒さんも、ご希望であれば配信できます。おうちにいらっしゃる時間が長い今、リトミックをご体験になってみませんか？「おうちリトミック」のお月謝は、2,200円です。

【うたくらぶ】

グルーブレッスンであることと、マスクをしながらの受講が難しいことから、「うたくらぶ」の4月分のレッスン（5月17日、23日、24日）は、お休みとさせていただきます。ご迷惑をおかけしますこと、本当に申し訳ございません。

再開後、3月分と4月分のレッスンは、補講させていただきます。

◆感染拡大防止にご協力をお願いします

教室は再開しましたが、3月にも増して、はりつめた気持ちでレッスンをおこなっております。生徒さんやご家族の皆さまにご協力をいただかなくてはならないことも、増えてしまいました。ご容赦ください。

教室はすべて、マスク着用でない方の入館をお断りしています。万が一、マスクを忘れた方は、「ショパンはうす」受付で簡易マスクを受け取って、すぐに着用してください。

入館後すぐに、アルコールもしくは、洗面所での手洗いで、手指の消毒をお願いいたします。アルコールは各教室玄関に、置いています。手洗いの場合は、洗面所備え付けのハンドソープをかならずお使いください。

「ショパンはうす」待合室は、窓を開けたままにしています。音の問題がありますので、待合室でのおしゃべりはお控えください。レッスン室も、生徒さんの入れ替えのたびに、窓を開けて換気しています。

ドアノブや手すりは、こまめに消毒しています。先生は各自、鍵盤をふく布を持ち、鍵盤や机を、生徒さんごとに消毒しています。レッスンで使うハタや小道具は、当面的間、手を触れず、指さしでレッスンをおこなうことをご了承ください。

少しでも健康に不安のある生徒さんは、通学をおひかえください。またそれは先生も同様であり、対面レッスンの先生に健康不安がある場合、急きよ、代講の先生が指導させていただく場面もあるかもしれません。どうかご理解ください。



◆ 「ジュニア・コンサート」について

「ジュニコン・オーディション」の結果、選抜された生徒さんによる「ジュニア・コンサート」は、当初、4月27日（月）夕方、開催を予定しておりましたが、非常事態宣言が下されたことにもとない、6月1日（月）夕方に延期させていただきました。関係する生徒さん、ご家族の皆さまには、たいへんご迷惑をおかけし、申し訳ございませんでした。

6月1日(月)の「ジュニア・コンサート」の場所は、現在のところ、新宿の「角
管ホール」を予定しています。ただし、非常事態宣言が延長されたことにもない、
ホールが貸し出されるかどうか微妙です。また、お客さまをお呼びすることに、た
めらいがあります。ですが、ご準備くださっている生徒さんのご負担を考えますと、
これ以上の延期はあり得ないと考えております。

そこで、以下のようにさせていただきます。

6月1日(月) 18:00開場 18:30開演
場 所： 角管ホール (もしくは「ひびきホール」)
無観客で開催します

場所は、現時点では「角管ホール」としますが、ホール側から連絡が来次第、「ひ
びきホール」に変更いたします。出演生徒さんに個別に連絡します。

無観客でおこないます。入場できるのは、出演者ご家族と担当先生だけです。出
演者ごとに入れ替え制とします。

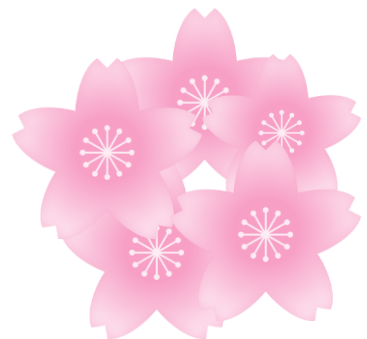
演奏は撮影させていただき、夏の発表会の中で上映いたします。生の演奏でない
点は非常に残念ですが、夏の発表会で、より多くのお客さまに観ていただきたいと
願っています。

◆今年のサクラ

お知らせが遅れましたが、今年も音楽系の進学を果たされた生徒さんがいらっしや
います。第一志望に見事合格です。これからのますますのご活躍をお祈りしています。
おめでとうございます。



東京芸術大学 音楽学部 (声楽科) 1名



◆タローズハウスの衣類をショパンはうすで販売しています

「ひびきホール」の建物1階にあったカジュアルウエアのお店「タローズハウス」が2月をもって閉店し、在庫商品を「ショパンはうす」1階にて、投げ売っております。すでに、たくさんの方にご購入いただきました。ありがとうございました。

夏物の商品を出しはじめました。リーバイス等、おとな向けのブランドジーンズも、近々、出しはじめる予定です。

現在、ベビーさんのクラスが動画配信となっているため、「授乳室」が空いています。試着室としてお使いいただくことができますので、試着をご希望の際は、受付にお声をおかけください。サイズがあえばお買い得です。



*スクールの生徒さんのご質問を、以下の2つの方法で受け付けています。

メール：1000@ichionkai.co.jp

電話：03-3954-9999

*お電話での質問時間は、毎週月曜日の午後7時～9時です。ただしレッスンがお休みの日は、質問もお休みとさせていただきます。

*ご質問は、お一人でも多くの方のご質問にお答えするために、お1人10分を目安とさせていただきます。ご了承ください。